

//REPORT//

## 令和 5 年度ユネスコスクールオンライン意見交換会

1/15(月)開催 第 5 回

「ユネスコウィーク 2024 ユースフォーラム関連企画『ユースの視点から知るユネスコ活動』」



ユネスコスクール事務局では、令和 2 度よりオンライン意見交換会を 1~3 か月に 1 回程度実施しています。今年度第 5 回目のオンライン意見交換会は、次世代ユネスコ国内委員会の皆様をお迎えし、9 名の参加者と対話の場をもちました。

### ■ プログラム

開催日時:2024 年 1 月 15 日(月) 16:00~17:00

時間	内容
16:00	<b>オープニング</b> 趣旨説明 ACCUCO 教育協力部 部長 大安喜一
16:05	<b>活動紹介</b> 次世代ユネスコ国内委員会
16:25	<b>ディスカッション</b> 活動紹介を聞き感じたこと、各校の取り組みをお互いに共有します。
16:45	<b>振り返り</b> グループ毎に、ディスカッションで話したことを発表します。(良かった点、学んだこと、今後活かしたいこと、改善点、メリット・デメリット等)
17:00	<b>クロージング</b>

### ■ 活動紹介

次世代ユネスコ国内委員会よりご説明いただきました。

以下、概要です。

本日は次世代ユネスコ国内委員会の概要の説明と、設立の背景、また活動が始まってから約 3 年経っていますので、これまでどのような活動をしてきたのか、そして最後に本ユネスコウィークの最終日に実施するユースフォーラムについて紹介します。

次世代ユネスコ国内委員会とは、ユースによるユースのユネスコ活動の活性化を目的に、ユース世代、18 歳(高校 3 年生)から 30 歳未満の方が集まり、日本ユネスコ国内委員会の運営小委員

会の下に設置されている組織です。設立目的は様々ですが、主に国内のユネスコ活動に関する若者世代のネットワークをユースからユースに広げていくことや、若者の代表として現在のユネスコ活動へ意見を述べたり、国際会議等に出席し、日本のユースとして発信力を強化したりといった活動をしています。ユネスコが教育、科学、文化と幅広い分野に関わる活動であるため、メンバーの関心分野も世代も多様で、住んでいる地域も日本国内だけではなく、海外の大学院で勉強している方も所属しており、多様なメンバー構成になっています。

次にユネスコにおけるユースの位置づけ、なぜ次世代ユネスコ国内委員会が設立されることになったのかについて話します。元々ユネスコはグローバルな政策議論にユースを巻き込もうという動きがあり、1999年より2年に一度、ユネスコ総会に合わせてユースフォーラムが実施されています。昨年の11月にもユースフォーラムが開催され、我々次世代ユネスコ国内委員会のメンバーが出席しました。また2021年11月のユネスコ総会において2022年から2029年のユネスコ中期戦略が承認され、その中で特に考えるべきセクターとしてユースが優先グループの一つに位置付けられました。主にこの2つが要因となり、ユネスコのあらゆるハイレベルの会合や各国においてユースのユネスコ活動への参画が重要視されていることから、次世代ユネスコ国内委員会の設立につながったという背景があります。このような背景を踏まえ、今年度より日本ユネスコ国内委員会の運営小委員会の下に次世代ユネスコ国内委員会が正式に設置されました。

次に、これまでどのような活動をしてきたのかを紹介します。もともと次世代ユネスコ国内委員会が組織されたのは日本ユネスコ加盟70周年記念の年である2021年の10月でした。

2021年度は10月からということで期間は短かったですが、ユネスコ活動の活性化に向けて提言書を作成しました。また各国のユースと一緒に、ユースのユネスコ活動をどうやって盛り上げていくかを考えるオンラインイベントを開催しました。2021年度はその2つがメインの活動でしたが、次の年はその提言書に書かれている内容を実際にアクションに移してみる活動をしました。提言書の内容は、元々あるユネスコの政策に対して提言をするというよりは、どんなアクションを起こせばユースの活動を活性化できるかという部分を重視しました。

2022年度は教育、科学、文化の3つのグループに分かれて活動しました。

教育ワーキンググループでは対話型平和構築ワークショップを実施しました。これは元々日本の教育現場において他者と対話したり議論したりする機会が少ないのではないかという課題意識がメンバーの中にあり、そういった他者との対話におけるアプローチや手法を学べるワークショップをESDの一環として私たちが企画し、実施してみようというプログラムでした。今回行ったワークショップでは、自然災害による避難所での生活の場を想定し、様々なセクターの方がいらっしやり、様々なニーズがある中でどのようにして合意形成を図って平和に近づいていけるのかをロールプレイ形式で実施しました。

科学のワーキンググループでは、特にユネスコエコパークやユネスコ世界ジオパークの2つに注目し、そもそもエコパーク、ジオパークの認知度がユースの中では低いのではないかという課題意識から、ユースがより積極的に参画するにはどうしたら良いのかを議論したり、フィールドワークに行ったりしました。ジオパークでは毎年全国大会が開催されているため、全国大会へ参加しポスターセッションで次世代ユネスコ国内委員会の紹介をさせていただきました。また、全国大会ではユースセッションが昨

年度から新しく企画されており、全国の高校でジオパークに関わっている生徒たちが全国大会を機に集まり、全国大会の開催地となったジオパークの地域を実際に巡り、その地域を保全しつつ発展させるにはどうしたら良いかを考えるという活動に参加・サポートをしました。また、糸魚川ユネスコ世界ジオパークにも取材へ行き、科学ワーキンググループは比較的フィールドワークベースでまずは私たちがジオパークやエコパークの魅力を感じつつ発信方法を考えるような活動をしました。

最後に文化ワーキンググループですが、特に創造都市にフォーカスを当てて活動しました。ユネスコ創造都市ネットワーク事業を他のユネスコ事業やユース世代と関わりを持たせるにはどうしたら良いのかということで、昨年度は旭川市、神戸市、山形市の 3 つの創造都市に足を運んでヒアリングをしたり、国内加盟 10 都市におけるユネスコ創造都市ネットワークの現状やユース世代の参画に関する情報収集を目的としたアンケート調査をしたりしました。2022 年度の活動に関しては[次世代国内委員会の報告書](#)がアップロードされていますのでぜひご覧ください。

今年度(2023 年度)は、正式に日本ユネスコ国内委員会の運営小委員会の下に設置され、主に今週末の日曜日に開催されるユースフォーラムの準備をしてきました。[ユネスコウィーク 2024](#) の中で 1 月 21 日(日)に「ユースによる『未来への宣言』～ユネスコ活動から考える気候変動～」というタイトルで、ハイブリッド形式にて開催します。対面は国立オリンピック記念青少年総合センターで行い、Zoom を使用してオンラインでも参加いただけるイベントです。今回のテーマがなぜ気候変動かと言いますと、昨年 11 月にメンバーの 1 人がパリで開催されたユースフォーラムに参加したのですが、その際のテーマが気候変動だったため、今回はパリでのテーマに沿うことにしました。

1 月 21 日のユースフォーラムの目的としては 3 つあります。1 つ目はユネスコ活動を通じて気候変動に取り組んでいるユース世代の分野横断的な出会いの場の創出、2 つ目は気候変動に取り組むための「未来への宣言」策定に向けたアイデアの抽出です。この「未来への宣言」というのは、ユネスコ活動を通じてユースが気候変動に取り組むにはどのような行動をしていけば良いのか、どのようなセクターと協力し、どういったアクションができるのかということイベントの最後にまとめて策定するもので、ユースだけではなく、他のセクターの方と一緒に考えていきたいと思っています。3 つ目はユース世代の気候変動に対する関心の促進であり、ユース世代ですでに気候変動に対してアクションを取っている方やユネスコ活動を行っている方に関心を持ってもらうこと、同世代や他の世代の方にもより関心を持ってもらうきっかけになればと思います。

対象者は主にユース世代でユネスコ活動や気候変動に関心のある人に来ていただきたいのですが、今回は世代を問わずこのようなテーマに関心のあるすべての方を対象にしているため、気軽に見に来ていただき、ユースの考えや発信、活動に関心を持ち、交流をしていただける機会にしていければ、と考えています。

パリのユースフォーラムの報告もありますが、パネルディスカッションや分科会を通して多くの有識者や気候変動に関心を持ったユースに来ていただけるので、そういった方々の話を聞きながら最終的にユースとしてどのような活動ができるのか、どういう風に行動していきたいいべきなのかということとを皆さんと一緒にディスカッションして考えていけるような機会になっています。

このような場を通してユースの声を学校、社会教育の場に届け、ユース発で気候変動の課題の対

策に係るネットワークの輪を広げていきたいと思います。例えばユースは気候変動課題に対して今何を考えているのか、ユースは気候変動対策に向けてどういったアクションを起こしているのか、自分一人ではどうにもできないものを抱えている場合はどのようなリソースやコミュニティ、機会を必要としているのか、というようなクエスチョンに対してユースの声を聞いてみたいという方がいればぜひ足を運んでいただければと思います。

ユース同士、ユースと地域、ユースと企業など、何かコラボレーションが生まれるきっかけづくりをして気候変動に関するユネスコ活動のアップデートにつなげていければと考えています。

## ■ ディスカッションの振り返り

次世代ユネスコ国内委員の方々やユネスコスクール事務局職員と参加者で対話の場がもたれました。

以下、話し合われた主な内容です。

- 
- ユースの学生も気候変動など幅広いところで活動しており、ユネスコスクールはどれが大事とか取捨選択するのではなく、どの分野でも取り組んでいければ良いのではないかというアドバイスをいただいた。今回大学生の方々のお話を聞けるということもあり、お願いできたらと思うことがある。例えばどうして次世代ユネスコ国内委員になったのかというような視点を児童に話していただくとか、キャリア教育的な視点で出前授業、生きた声を聞けたら良いと思った。ACCUのスタッフからは担当大学の紹介や全国大会の事例報告の情報ももらい、今回に限らず色々なところに参加して学校の実践を聞きたいと思った。
  - 次世代ユネスコ国内委員から糸魚川の実践を詳しく話してもらった。糸魚川の小中学校ではジオパークの学習が進んでおり、フォッサマグナミュージアムを活用したり、自然学習を通してジオパークについて学んだりという活動があり、また香港のユネスコスクールとも交流し、他の国の実態を知る機会にもつながっているようだ。ただし、大学になると実際にジオパークを専門にしている大学生は関わりや学習が進んでいくが、そうではない学生の参加は難しいとのことだ。それに関連し、学区外から希望して登校している子どもが増加傾向にある本校でジオパーク、エコパークに登録されている地域の魅力を子どもたちが実感するためには、教育活動の中でジオパーク、エコパークの活動を深めていかなければいけないと感じた。また、大人になっても地域に関われる活動や、地域のことを発信したいと思えるような教育活動を取り入れていく必要性も感じた。そのほかにも、生徒会の活動を活発にして盛り上げていくというアイデアや、社会教育施設を生かしていくのも良いのでは、というアイデアも出た。
  - 日本ユネスコ協会連盟はユネスコスクールをサポートしたり積極的にユネスコ活動に取り組もうと思っている高校生をサポートしたりしているため、ユースからの声を聞きたいとのことで、次世代ユネスコ国内委員会のメンバーとして困っていることや、どういことをこうしてほしいという要望はあるか、との質問をいただいた。これまで活動してきた中で、他のユネスコ活動をしている団体とつながることが難しく、活動しているユース同士でつながることもなか

なか難しいので、横のつながりを作っていきたいと考えている。また次世代ユネスコ国内委員会は全国から集まっているのでオンライン主体の活動になっているが、何かイベントをしたいと思ったときにどのように広報して興味のある人にリーチできるかということが課題でもある。またディスカッションの中で、高等学校の先生から実践の紹介があった。1 つはジオパークの活動であり、他の国のジオパークとつながろうということでインドネシアのジオパークとつながることができ、インドネシアの高校生と交流ができたとのこと。もう 1 つは 2 月に世界青年の船が寄港し色々な国の人が高校を訪問する予定のため、生徒がガイドしたい場所を選定し、英語でガイドする活動の準備をしているようだ。ユネスコスクールでも横のつながりを作ることがなかなか難しく、ユネスコスクール同士でどのようにつながっていけば良いかという課題があるとのこと、次世代ユネスコ国内委員会からも、ユネスコスクールからも横のつながりを作っていくことが大事という話になった。1 月 21 日のユースフォーラムに関連し、ユースからユースにという縦のつながりも大事という話になった。日本ユネスコ協会連盟からは、ユース同士で教え合うという活動を通して学びを深めることはユースの中での問題意識を活発に刺激し、活動をより生かしていくようなものになるため、(ユース内での)縦のつながりももっと意識できるようになると良いという話があった。今後の方向性としても可能であれば次世代ユネスコ国内委員会がどのような活動をしているかという情報交換を定期的に行い、ユネスコスクールでこういう活動をしているから一緒に何かやってみては、というようなつながりを作っていきたい。



[オンライン意見交換会の様子]

- オンライン意見交換会に関し、お申込み方法などの詳細は、[ユネスコスクール公式ウェブサイト](#)内「最新情報」、[ユネスコスクール公式 Facebook](#)に掲載中です。ぜひご参加ください！
- 本事業の関連情報や今後の事業展開、参加募集などは、ACCU のメールマガジン(月 1 回、第 2 または 3 週目に配信)でもご案内いたします。皆さまこの機会にぜひご登録ください！[配信登録用フォームはこちら](#)